

議会報告会報告書（前半）

開催日時	平成29年11月17日（金） 19:00～19:47
開催場所	芳川公民館（大会議室）
出席議員	今井ゆうすけ、勝野智行、青木 崇、川久保文良、村上幸雄、上條 温、小林あや、上條俊道、澤田佐久子、芝山 稔、犬飼明美、宮下正夫、近藤晴彦、大久保真一
参加人数	37名（一般30名、職員7名）
議会の活動報告に対する質疑	<p>Q：建設場所について、知らないうちに決まってしまったという感じが強い。私の周りの多くの人が同様に感じている。現在の場所で本当にいいのか、松本城を中心とした観光都市を目指すのであれば、現庁舎の場所は松本の物産館、不足している駐車場としての利用が良いと思う。また、将来を見据えれば、周辺市町村との合併の課題も現実の問題としてありうると思う。そういうことも考え合わせれば、現在地よりは南西部に移転すべきと思う。</p> <p>A：今年の6月から9月にかけて、議会でも市民の様々な意見を取り上げて議論し、有識者による検証委員会のなかでも市民から寄せられた候補地について検討をした結果、現地建て替えという結論が出されたため、議会として了承したものである。</p> <p>Q：将来的なことももう少し考えて決めるべきであり、他の場所の方が良かったということが起きることを危惧している。候補地についてはどの程度調べたのか。観光都市として松本市を発展させたいのであれば、考える余地があるのではないか。</p> <p>A：意見としてはお伺いするが、議会としては了承している。検証委員会では、歴史性や将来性、交通アクセス、インフラ整備のコストなどの視点から評価が行われたものである。</p>
その他	意見：せっかく地域に出向いて報告会を行うのであれば、その地域に関わる話題についてもテーマに加えてもらいたい。

松本市議会議長 様

平成29年11月20日

上記のとおり報告します。

報告者 川久保 文良・近藤 晴彦

議会報告会報告書（意見交換）

開催日時	平成29年11月17日（金） 19:50～20:33
開催場所	芳川公民館（大会議室）
出席議員	村上幸雄、小林あや、芝山 稔、勝野智行
参加人数	17名
意見交換	<p>テーマ名（ 防災 ）</p> <p>Jアラートについて</p> <p>Q（議員）：先日、Jアラートが鳴ったが、そのときの対応はどうであったか。</p> <p>A（参加者）：芳川小学校まで4kmくらい歩いて通学する子もいる。通学途中に鳴り、平田駅辺りにいた子と一緒に駅の中へ逃げた。解除の放送がなく、いつまで待っていればいいのかと思う。解除の放送もしてほしい。</p> <p>A（議員）：終息したことを知らせ、安心させる放送は必要。</p> <p>Q（参加者）：松本市には地下の避難場所はない。建設する予定もないが。</p> <p>A（議員）：2度目のJアラートでは、変更されて「地下へ」というアナウンスはなかった。</p> <p>Q（議員）：防災行政無線の声は聞こえるか。</p> <p>A（参加者）：何を言っているのか理解はしにくい。時間差で放送するなどいろいろやっているが、きちんと聞けない。近くの人にとってはうるさいので、今より大きい音量にはできないと思う。</p> <p>車中泊について</p> <p>Q（議員）：熊本地震でも車中泊をする方がいたが、松本市でも想定されるか。</p> <p>A（議員）：エコノミークラス症候群も心配される。医師会からは良くないと言われてるが、現実はどうせざるを得ないと思う。</p> <p>A（参加者）：平田町会には、田川と牛伏川に挟まれた三角洲の中にも地区がある。指定避難場所はなんなん広場になっているが、川を渡って行けるのか。行くことができなければ、近くの公園などで車中泊することもあるのでは。</p> <p>A（議員）：何があってもよいように気持ちの備えだけはしておくという意識を持ってもらう取組みが必要。</p> <p>車中泊する方は必ず出てくることを想定して、例えば石油業界では「ガソリン満タン運動」に取り組もうとしている。</p>

- Q（議員）：車中泊で問題になったのは、誰がどこにいるかわからないことから支援物資を届けられないことであつた。車中泊している方の把握について、町会で話し合ったことはあるか。
- A（参加者）：基本は自宅近くに車中泊するので、遠くに行くことはないのではないか。町会として人員は把握できるので問題ない。
- A（議員）：トイレの必要もあり、支援物資を届けるためにも広い敷地にある程度まとまっていた方が良いのでは。
- Q（参加者）：支援物資は避難所に届けられることになっているが、芳川地区は町会連合会がしっかりしているので、町会連合会で掌握した方がスムーズだと思うが。
- A（参加者）：そうは言っても避難所に集まる以外はない。町会の役員も被災者であり、なんでもやるのは無理がある。
- A（参加者）：拠点となる避難所に集まれるのであれば良いが、実際はそうではないところの方が多いのでは。
- A（議員）：熊本地震では、地域のコミュニティーがあまりなかったので、NPOが活躍したようだ。
松本で大地震が起きても、被害は市内全域ではなく局地的になると言われている。難を逃れた人たちが、被災地域へ支援に行く仕組みができればよいのでは。
- Q（参加者）：有事の際、住民同士の連携が取れる体制になっているのか、どういう行動をとったら良いのかをわかっているのか疑問。本当に何かあったときに困るのではないか。
自主防災組織はあるが、常日頃からわかっていないと行動ができない。どうやって住民に周知していけばよいのか。
- A（議員）：仮にシステムを理解していても、その人が実際にその場にいるのかという問題もある。住民の意識次第でシステムが動くのかどうかが変わってくる。
- A（参加者）：パニックになってしまう可能性も十分ある。芳川地区のように大きいところだと、指定避難所で全員受入れができるのかどうかも心配。
- Q（参加者）：避難所開設のルールを知って不安に思う。しかるべき資格のある人がOKを出さないと開設されないことは知らなかったもので、びっくりした。とりあえず避難所に行けばよいと思っていた。
- A（参加者）：建物が安全かどうかを判断する建築関係の方がOKを出せばよいが、それが5分で済むのか、30分かかるのかはわ

からない。その方も被災者であるので。

A（参加者）：多くの人は避難所に行けばよいと思っているが、実際には住民の3割の収容しか想定していないところに押し寄せることになる。

A（参加者）：現実として住民を100%収容できる施設はどこにもないのでは。

A（議員）：東日本大震災の時に避難者が多かったのは津波の影響が大きかったのであり、地震による避難者は局地的なものになるのではないか。

A（参加者）：住宅も耐震がしっかりしてきているので、よっぽど強い地震でも全部が倒壊することはないと思うが。

Q（参加者）：民間企業を避難場所に設定できないかということで動いていたこともあるが。

A（参加者）：芳川地区がモデル地区になって取り組んだときに、市の方から地区内の事業所に依頼して災害時の協定を結んだ経緯がある。平田町会は4社と連携しているが、それぞれ地元企業に相談してみてもどうか。

災害時支援物資集積拠点の整備について

Q（参加者）：建設場所の選定にあたり、断層に近いとか、橋が落ちた場合は大丈夫なのかという話があったり、東側の山が土砂災害警戒区域であったりするが、議会で認めた経緯は。また、どのくらいの予算がかかる見込みなのか。

A（議員）：場所については、交通アクセスを含め総合的な観点から選定されたもの。

Q（参加者）：議員の話を見ると市の担当者の説明と同じことを言っている。市とは違った視点でチェックするのが、議会の役目ではないのか。

A（議員）：整備にかかる予算はおよそ15億円である。熊本地震の際、全国から送られてくる支援物資について、一旦、福岡市で引き受け、仕分けをしてから熊本に送ったという経験から、松本市でもそういった施設を整備することになった。場所の選定にあたっては、断層の問題はあったが、東側の山が崩れても影響のない距離にあり、平瀬橋の耐震性も確保されていること、実際に物流を担当するトラック協会もこの場所が適地だとしたことから議会として認めたもの。

A（参加者）：集積拠点は今後さらに別の場所に増設されるかもしれないし、他の被災地へ支援物資を送る際にも使われる。

市長への政策提言の内容について

Q（参加者）：市長へ政策提言している凝固型簡易トイレ（携帯トイレ）について、ただ提言しただけなのか、今後何か形になっていくものなのか。

A（議員）：市では、市民の1割の方が1日5回使用する計算で2日分（約26万枚）を備蓄し、各小中学校に設置する備蓄倉庫に保管することになっている。

Q（参加者）：それは提言の結果でそういうことになったのか。

A（議員）：提言も加わった結果である。

Q（参加者）：トイレ関係は地区でやっても難しい問題で、一番後回しになってしまう。私は携帯トイレを300個備蓄しているが、みんなが持っていれば全然違う。市としても3、4日は大丈夫なように備蓄しておいてほしい。

A（議員）：携帯トイレは支援物資として送られてくるので、どれだけ備蓄しておけばよいのか、費用対効果も考える必要がある。

Q（参加者）：避難所で一番大変なのはトイレだと聞く。備蓄しろという意味ではなく、各家庭で持つようにするにはどうすればよいか。

Q（参加者）：各町会の公民館などに各戸数分くらいは確保して、市から配布してもらうことはできないか。

A（議員）：議会からの提言の中には、各家庭で備蓄するよう意識を変えていくために補助制度も取り入れてほしい旨を盛り込んでいる。

A（議員）：今後、議会からの提言内容について、市ではどのように対応するのか、報告を受ける場を設けることにしている。

けが人の対応について

Q（参加者）：避難する際に怪我をした場合など、必ず医療救護所で手当てを受けることになっているが、目の前に病院があっても診てもらえないのか。

A（参加者）：この地区では筑摩野中学校が医療救護所になるので、個別の病院では受け付けないことになっている。

A（参加者）：医療救護所には医療設備がないからトリアージしかできない。結局そこからもう一度移動しなければならない。

A（議員）：大災害があったときには自分達の命は自分達で守るという基本のもと3日間は対応しなければならないということではないか。

その他	意見：意見交換のやり取りを聞いていると、議員と一部の町会役員との懇親会のように聞こえる。市民が議員と意見交換したり、議員から報告を受ける機会はほとんどないので、他の場所でももっとやってもらいたい。
-----	--

松本市議会議長 様

平成29年11月24日

上記のとおり報告します。

報告者 勝野 智行

議会報告会報告書（意見交換）

開催日時	平成29年11月17日（金） 19:51～20:39
開催場所	芳川公民館（視聴覚室）
出席議員	犬飼明美、上條 温、上條俊道、大久保真一、今井ゆうすけ
参加人数	11名
意見交換	<p>テーマ名（ 地域公共交通 ）</p> <p>Q（議員）：市南部地域の交通の問題はどうか。</p> <p>A（参加者）：ここは電車が通っているので、バスの利用は少ない。</p> <p>A（参加者）：道路事情が悪いので、イオンモール松本の開店によって路線バスが1時間も遅れるような状況になっているが、それは市が作り出したようなもの。市の南部でも国道19号の渋滞による経済損失を計算してみたら何百億円になるのではないか。タウンスニーカーも大事だが、地域公共交通を考えるうえで道路行政を何とかしなくてはいけない。</p> <p>A（議員）：道路の問題はご指摘のとおりだが、今のままでは将来的に交通弱者が増えてしまう。ただ、コミュニティバスも現状のバスの形態では女性が乗りにくかったりするので、運行方法も含めてもう少し何とかならないかと思う。</p> <p>Q（参加者）：福祉ひろばには多くの高齢者が来るが、芳川地区は広いので、車でないと来れない人も多い。ここを拠点にしたバスを運行できないか提案したこともあったが、実現の可能性はない。ここはコミュニティバスも通っていないので、午前・午後2便くらいバスを走らせられれば来やすくなると思うが、どうすれば形にしてもらえるのか。</p> <p>Q（議員）：コミュニティバスの説明会のときはどうであったか。</p> <p>A（参加者）：既存の乗車人員を増やすことに目が向いていて、波田へ行くのにここを通過するようにするのは無理がある。</p> <p>A（議員）：今後、地区内に循環するバスを走らせた方が良いという意見が多くなれば、そういう方向に進むのではないか。デマンド交通が一番良いと思うが。</p> <p>A（参加者）：福祉ひろばの利用者がある一定の人数から増えていかない理由として、交通手段の問題がある。</p> <p>Q（議員）：他に普段、公共交通のことで思っていることがあれば。</p> <p>A（参加者）：松南地区で民生委員をやっているが、75歳の高齢者が非常に多い。南部循環線は通っているが、日曜日は運行して</p>

いない。そば祭りの際は、金・土曜日は満員であったが、日曜日にはエレベーターのない南松本駅を避けて、平田駅から電車で松本駅に向かわなければいけなかった。

ルートも他の路線バスと一部同じルートを走っているが、地区内で高齢者の多い町会を回るようにはならないか。

議員も町会長の会議に出席して地区内の現状を聞き取ってほしい。南部地域は人口も増えているのに、南部地域の住民の声が市の施策に反映されていないような気がする。

A（議員）：それぞれの町会連合会で、議員を相談役などに位置付ければ会議にも出やすくなる。

道路に関しては全く同感であり、例えば長野市は幹線道路がよく整備されているが、あれは長野オリンピックを契機に整備されたものであり、そういった大きなイベントを契機にしないとなかなか整備できない面がある。10年後に開催される国体の主会場を松本に誘致できれば、一つの足掛かりになるのではないか。

A（参加者）：県外では市街地の道路を拡幅するのではなく、郊外に広い道路を整備して、通過車両をそちらに誘導している。今ある道路を左右に広げようという発想では、いつまでたっても良くなるしない。

A（議員）：地方整備局へ陳情にいくと言われるのは、地元の熱意と政治家だと。政治家を育てないと道路はできないと言われる。

A（参加者）：高校生からの請願の一つに自転車レーンの話があったが、若い世代に自転車利用や歩くことを厭わないという意識を醸成していかないと車社会は変わっていかない。そのために自転車専用の道路を整備することなども必要。

A（議員）：中心市街地に自転車置場がないということは、高校生を客としてみていないということ。本当に街の中を賑わしている人にとって使いやすくするという視点が大事ではないか。

議員：なかなか声が上に通らないという指摘もいただいた。私たちがアンテナを高くしなくてはいけないが、是非議員を使ってもらいたいし、町会でまとめて要望書を作って市へ申し入れることも大事かと。

その他	<p>意見：市役所庁舎の建て替えや基幹博物館の建設、外堀の復元など大変なお金がかかるが、松本市のお金がみんな中心市街地に使われてしまっている。南部地域は人口も増えているから払う住民税も多いので、それに見合った形で南部地域に目を向けてもらえればよいが、災害時支援物資集積拠点も本来、一番必要なのはこの地域ではないか。</p> <p>意見：発想を変えて、公設地方卸売市場を防災拠点として活用する方法もあるのではないか。</p> <p>意見：松本市が中核市になるならば、ぜひ保健所はまつもと医療センター付近や平田駅西口付近に設置することを考えてほしい。芳川地区2館目の福祉ひろばも併設して作ってもらいたい。</p> <p>意見：まちづくりの核となる村井駅の整備についてもぜひ推進してもらいたい。</p>
-----	--

松本市議会議長 様

平成29年11月24日

上記のとおり報告します。

報告者 今井 ゆうすけ

議会報告会報告書（意見交換）

開催日時	平成29年11月17日（金） 19:52～20:40
開催場所	芳川公民館（講義室）
出席議員	川久保文良、澤田佐久子、宮下正夫、近藤晴彦、青木 崇
参加人数	13名
意見交換	<p>テーマ名（ 若者の参加 ）</p> <p>○意見、要望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学生の投票率も上げる取組みをしてほしい。 ・期日前投票所が市南部地域になく、地域格差を解消してほしい。 ・投票立会人は若い人が務めるべきだ。 ・地域の団体も、若者を受け入れるための魅力を備えている必要がある。 ・若者を地域に定着させるにはどうするか、課題を洗い出すべきだ。 ・今の若者における有給休暇を取りづらい現状を認識し、地域参加を考える必要がある。 ・若者の低投票率は政治不信によるもので、政治家と若者が接する機会を確保するよう努めてほしい。 ・若者が地域に参加すれば、自ずと政治参加につながるのではないか。 ・若者の流出を抑えるためにも、地域参加の前段階にある、若者における仕事環境の整備をしてほしい。 ・若者が地域の役職に就く場合に相談できる窓口が欲しい。 ・投票に行くことが政治参加とは思わない。自分の声が反映され、社会が変わるという体験をすることこそ政治参加。新城市の若者議会のような仕組みが必要だ。 ・若者が地域にいないと言うが、スポーツサークルなどで集まってはいる。意外と声を掛けられればやってくれる若者もいるので、それを発掘することと、あわせて魅力を創ることが重要だ。 ・車座のように、気楽に子どもと地域の人が話せる機会がほしい。 ・夏休みに子どもを集めて、市議会議員と話す場を設けてはどうか。 ・中学生になると政治のことなどにも関心がでてくるので、ターゲットにできればよい。 ・政治と触れる機会を得られる高校への出前講座は良い取組みなので続けてほしい。 ・他の高校でも出前講座を展開していくことはできるのか。 ・地域のPTA組織がしっかりしていると、子どもたちが地域に参加してくれる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・町会に加入することのメリットを伝えることができれば、自然と加入率も上昇するのではないか。 <p>(議員から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校への出前講座での取組みを少しでも広げていけたらいい。 ・地域づくりに参加している子どもたちがより広く参加してもらえるような工夫をしていきたい。 ・町会に加入しない人が増えている実態があるので、調査していきたい。 ・町会活動に関心ある人を見逃さないこと、若者が公民館に親しむ仕組みを作ることも大事ではないか。
その他	なし

松本市議会議長 様

平成29年11月22日

上記のとおり報告します。

報告者 青木 崇